

# 《月々の手入れ》

## 【5月】

5月はいよいよ春バラが開花する季節、「春のバラは季節が咲かせる」と言われています。気温の上昇とともに人間にとっても過ごしやすい季節となります。人の手を借りなくてもバラは咲きますが、手入れは怠らずにバラを楽しみましょう。

今月の主な手入れは

1. 副蕾・主蕾摘み
2. 灌水
3. 花の仕上げ
4. 施肥
5. 消毒
6. 新苗の植え付け

1. 副蕾・主蕾摘み



図 1



図 2

### (1) 副蕾摘み

HTでは、品種によりますが主蕾の脇やその下の1枚葉、3枚葉などの脇からも盛んに小さな蕾を出してきます。これを副蕾と言います。これらをすべて咲かせると主蕾は小さく先に咲き、副蕾はその後からさらに未成熟な小さな花が咲きます。HT種は1枝に1花を咲かせて初めて本来の大きさの花形で咲くので、競技用、庭の観賞用、そして切り花用でも副蕾は小さいうちから取り、主蕾に全栄養が行くように早いうちに摘み取ります。

### (2) 主蕾摘み

FL(フロリバンダ)など房咲き系のバラで房の数が多いバラは、逆に主蕾を先に摘むと周りの副蕾が均一になり、房咲きが一斉に揃って咲きます。主蕾を摘まずにおくと先に主蕾が咲いて、そのあとから副蕾が順次咲いてきますが、大きさと咲く時期がずれ、あまり美しくありません。

主蕾を摘む関係で開花時期が遅れ気味になるので、房咲きになる枝を見極めてから主蕾が出たら直ちに摘みます。



図 3



図 4

## 2. 灌水

5月は好天の続く月です。地植えも鉢植えも先月同様表面が乾いたらたっぷり水をやります。ただし、展示会に出品する競技用の地植えHTバラは、特に開催日の10日から2週間前には灌水を中止します。つまり蕾が大きく膨らんで縦に色が見えてきた頃です。

鉢植えは水切れを起こすと枯れてしまいますから、この時期は最低限の水遣りにします。

競技用HTのステム短めの品種は、4月後半から5月前半の成長期に灌水間隔を詰めて多く水やりしてステムを伸ばし、開花10日～2週間前には灌水を

無断複製及び外部持ち出しを禁ずる

中止するのは同様です。

ステムが長すぎるくらい十分に成長する品種や葉が大きくなる品種は、逆に初めに灌水しその後は全く水を控えることで、バランスよいステムに仕上げます。また仕上げの後半に多く灌水したり、葉面散布で栄養を与えたりすると、ステムの上の方の葉が大きくなり下の方の葉が小さくなるバランスの悪い逆三角形の見苦しいバラになるので要注意です。

### 3. 花の仕上げ

灌水による花の仕上げ方は前述のとおりです。

#### (1) 枝直し

灌水を中止するころから競技用HTでは、ステムの曲がった品種は不利となるので矯正します。固い素材の直径5mmぐらいの丸棒又は角棒を利用します。

柳葉の出た初めから首曲りの蕾は、矯正不可能なので中ほどの5枚葉でピンチし、2番花に期待するしかありません。



図5



図6

#### (2) 花の保護

競技バラを栽培する場合、全天候性の設備があった方が有利となります。農業用ビニールハウスは一般的な住宅地では景観の関係もあり不向きですが、透明の波板資材で屋根だけを覆うポーチ型の設備などで栽培している方もいます。

天候が続くときは問題ありませんが、バラの花は雨で見苦しくなります。最も簡単な方法は、雨からバラを防ぐため、露地栽培では1株ごと

無断複製及び外部持ち出しを禁ずる

に農竹などを立て、大きめの透明ビニール傘を結束バンド(インシュロック)を利用して結束すればしっかりと固定できます。よほどの強風以外は対応可能です。

#### (4) 彩花と水揚げ

##### a. 切り枝の位置

綺麗に咲いたバラをそのまま庭に咲かせてガーデン風に花が終わるまで鑑賞するのもバラの楽しみ方の一つであり、採花して切り花として室内で楽しむ場合は、枝の切る場所は必ず本葉(5枚葉・7枚葉)の上で葉の出ている角度に沿って斜め切ります。ただし良く切れる剪定ばさみを使います。5枚葉からは再び芽を出し枝が伸びて2番花を咲かせます。枝のつけねの5枚葉のない位置で切ると次の新枝が出てきません。

##### b. 三角袋

バラを競技用に出品したり、人にあげる場合は、せっかく咲いたバラの花や葉を傷つけないように一本ずつ専用の三角袋(フラワーキャップ又は三角花袋)に収納して室内の冷暗所に持ち込みます。

##### c. 水揚げの方法と水揚げ時間

首までつかる深いプラスチック製容器(深さのあるゴミバケツが便利)に収納して水揚げをします。首までの水揚げは最低1, 2時間で十分です。花瓶に入れて鑑賞する場合は、毎日水を取り換えるか市販の切花延命剤(主原料はシュ糖分と漂白剤(殺菌効果))を用いると多少長持ちします。人にバラをあげる場合は、なるべく枝の真っ直ぐな、花が開き切っていないバラを選び、できればトゲは落した方が喜ばれるでしょう。

##### d. 競技用HTの水揚げテクニック

「手児奈」のように採花してから時間が長いと褪色の著しい品種は水揚げを極端に短くして最低限生かすだけの水で展示会場へ運搬します。大方の品種は採花時花芯が奥に入り込んでいますが、花芯を美しく上げ伸ばしてよく魅せるために、わざとまだ開花の若いうちに採花して1晩から1日水揚げし花芯を上げ伸ばす場合もあります。この場合気温が低く冷暗所が有利です。できれば冷蔵庫保管がよいでしょう。

#### (5) 花の運搬

展示開場へ運ぶ場合、水揚げが十分なら1時間ぐらい水なしで新聞紙に包んで運ぶこともできますが、本数が多かったりする場合はバケツなどに少量の水を入れて運びます。会場まで距離の短い地元ではこれで十分です。

運搬が県外など遠方の場合、マイカー以外の一般交通機関では運搬には工夫が必要です。段ボール箱などに収納して運ぶ方が花を傷めずに確実に運搬できます。段ボールは高さが 80 cm は必要です。四辺の大きさは大きければ花数は多く運べますが、道中の乗り物や徒歩での移動を考えると大きすぎてもいけません。また、花を維持するため 1 日以上延命剤入りの水につけた「オアシス」に刺して運びますが、箱自体をある程度傾けても水が出ないよう段ボールの場合特に工夫が必要です。私は 30×30×80 cm のプラ段ボールで専用の箱と、底に傾けても水の出ないオアシスを収納する中箱と内の仕切り板も自作して航空機・電車・バスすべての交通機関可能な方法で運んでいます。これで 9 本から 20 数本まで運搬可能です。花がなくなった帰りは解体して 20×40×30 cm のバッグに収納して運べ、オアシスもナイロン袋に入れ何回も使えます。また、3、4 分咲きの花を運んで一泊し 2 日目に展示できます。むしろ花芯が上がって有利な場合があります。しかし、花の鮮度との兼ね合いです。



バラグッズ  
上：三角花袋(フラワーキャップ)  
下左：トゲ落し  
下右：採花用ハサミ

図 7

#### (6) 水切り

展示容器に移す前は必ず水切りをします。特に枝の長さが不足気味で枝の付け根で切ったバラは水揚げしにくいので注意が必要です。審査までに水揚げしなくて失敗した例があります。

#### 4. 施肥

##### (1) 地植え

地植えは先月と同様に、冬の元肥が施してあれば今月も必要ありません。追肥主義でも花の月の5月は施肥しません。

##### (2) 鉢植え

鉢植えは新苗や2年大苗のように植付けて株の成長を期待する場合を除き、置き肥・液肥とも控えめまたは中止します。

##### (3) 液肥、葉面散布

液体肥料系はいろいろなものが発売されています。開花前の競技用HTなど、リン酸濃度の高い製品の利用や、葉面散布は葉などが台無しになったり、危険を伴うので要注意です。

#### 5. 消毒

##### (1) 散布の基本

開花前の10日～2週間前までに各種予防散布を終わらせましょう。蕾に花色が見え出してからスリップスなどの防除を行うと、花卉に赤いシミができてせっかくの花が台無しになってしまいますので、その前に予防散布をしておきます。

花の咲いている間は病害虫がひどい場合を除き、消毒は中止します。花期が2週間以上続き、消毒のペースも空くので、葉の病気も出やすくなります。展示会等終わったら、または花が終わったら、花柄摘みを早めに行い順次定期的な予防散布を行います。

##### (2) 散布器具の取り扱い方

噴霧器の出が悪くなったら、ノズルの目詰まりを疑って掃除をします。

噴出口のメッシュにゴミが付着しているので取り除いて掃除します。

薬液が霧状に出ますが、栽培本数が多くなったら器具を更新するとともに噴出口のノズルもシングルからダブルにすると効率的です。

##### (3) 散布の仕方

活性剤や有効な天然物質を使用し、なるべく減農薬に努めますが、薬液の使用量は、バラの株の大きさにより一概には言えません。

株の上下や内側、向こう側と万遍なく散布し、特にノズルの向きを上下して葉の裏側と表側も散布します。

薬剤が株元の地面に滴り落ちるぐらいたっぷりと散布すると言われてきましたが、有機栽培の場合は殺菌剤で土壌中の有益な細菌を殺すことになるのであまり多量散布は控えたほうが良いでしょう。

無断複製及び外部持ち出しを禁ずる

◎第1回目 目安5月1日 先月の第2回目と兼ねてもよい。

アプローチB I 1000 倍、竹酢液 800 倍、アミノ酸エキス 1000 倍、オルトラン  
又はスピノエース(スリップス対策)2000 倍、オーソサイド又はポリキャプタ  
ン 500 倍又はトップジンM1000 倍  
スリップス=アザミウマ

◎第2回目 目安展示会前の10日~2週間前までに終わらせる。

展着剤、活性剤関係は毎回同じ。

殺菌剤 オーソサイド、ポリキャプタン、ラリー乳剤、ダコニール等からどれ  
か1種

殺虫剤 オルトラン、アドマイヤー、スピノエース、スミチオン、ベストガー  
ド、モスピラン、ダントツ、アルバリン等からどれか1種

殺ダニ剤 コロマイト、ダニトロン、ダニ太郎(マイトコーネ)、ダニサラバ等  
からどれか1種

## 6. 新苗の植え付け

新苗とはこの冬に接ぎ木したばかりのまだ若いバラの苗です。接ぎ木テー  
プを巻いた接ぎ口はまだ剥がれ易い点と台木になっているノイバラの根は慎  
重に扱います。

この新苗が4月下旬から5月ごろに売り出されます。

新苗を秋まで畑で大きく育て冬前に裸苗(根を洗ってむき出しにした苗)で  
売られるのが2年大苗です。

2年大苗を鉢植えにし、この春に花をつけて売り出されているのがポット苗  
です。フレンチローズやイングリッシュローズなど外国の輸入苗は殆どがこ  
の状態で売られています。台木が日本の気候に合わないので育ちはノイバラ  
に比べてよくありません。しかも裸2年大苗をこの冬にポット植えし、花を  
付けて売った方が付加価値を付けて高く売れるので良く出回ります。鉢が小  
さいので植え替えようと無理にポットから抜くと白根を切ってしまうこと  
になり、枯らしてしまう確率が高くなります。花付き鉢植え苗は買わない方が  
良いか、花が終わってから鉢底から白根がいっぱい出てきてから、根鉢を崩  
さず抜き鉢増しを行います。

当地では2年大苗よりこれから気候がよくなる新苗の方が秋まで花を見る  
ことを我慢すれば、しっかり水と肥料をあげればより大きく育ちます。  
一方、2年大苗は植え付けてから冬に向かい雪の下になったり、根が乾いてし  
まった苗だったりして植えつきが悪く春先に芽吹かず枯れてしまうことがあ  
るリスクの高い苗です。

### (1)新苗の植え付け

新苗は10 cm前後のビニールポットに植えられています。このままですと育たないので、ポットの底から白根が出て見えれば1日水を控えて乾燥気味にすればポットの形のまま土と一緒に抜けますので、この状態で根鉢を崩さずこのまま5号~8号鉢に植替えをします。蕾や花がついている場合は指先で5枚葉の上から指先の爪で摘み取ります。(ソフトピンチ)  
5枚葉まで下がると苗の枝が短くなって葉がなくなってしまう場合は蕾だけ取っても良い。

### (2)植付け用土、鉢

バラ専用の鉢植え用土が市販されているので、それらを使用してもよいでしょう。鉢用土は水はけが良いに越したことはありませんが保水力、保肥力の良い土が根張りも良く、優れています。なお、専用用土と専用培養土が市販されていますが、一般に培養土は少量の肥料が含まれており新苗の用土には高価な培養土は必要ありません。

また園芸用のピートモスを主体とした重量の軽い用土も市販されていますがそれらを使用しても良い。

自分で用土をブレンドして使用することをお勧めします。

#### ※ブレンド例

赤玉中粒または小粒、決して高価な硬質は使用しない(水はけが良すぎて保水力不足)50%

黒土、又は赤土10%、馬糞堆肥、海藻系微量元素、ピートモス、鹿沼土を基本に他に適宜パーライト、ココヤシチップ、モミガラ燻炭、ゼオライト等ブレンドする。なおこれらの用土と米糠に醗酵資材又は腐葉土・堆肥等を混ぜ合わせ少量の水と醗酵させ、2、3か月土嚢袋などで寝かせたたボカシ赤玉土はリン酸の吸収が良くなって有用な用土となります。

使用する鉢はプラ鉢が軽いのと保水性が良いので、素焼き鉢やテラコッタは重いのと保水性が悪いので使用しない。また、小さく深い鉢は風で転倒し易いので避けます。なお、プラ鉢でも根が回らないスリット鉢が安価でバラもよく育ちお勧めです。

### (3)植付け方

○最初の1, 2年は癌腫等の心配から鉢植えで育て、地植えは鉢で癌腫や樹勢、樹形等を良く見極めてから植えるようにします。

○ビニールポットから根鉢を崩さずに抜き、この時底根が回っていれば多少根をほぐす程度にし、決して全ての土を落としたり、根を洗ったりすると根を傷めることとなり、これから気温の上昇する時期に、枯れるリスクが高くなります。

- バラは花を咲かせるとき、最もエネルギーを消耗します。新苗は株を早く大きく育てるために秋まで花は咲かせません。蕾は5枚葉の上で摘み取る。
- 必ず支柱を立てて苗の枝の一部をビニタイ等で結び付ける。この時、台木部分もビニタイで結ぶと活着が早い。
- 鉢のウォータースペースを必ず残しておく。
- 新しい用土は十分押し固めて植え付けしないと、水やり後用土が減ることがあります。
- 植え付け後はすぐに鉢底から水が流れるほど十分に水遣りしますが、ピートモスを使用している場合は最初水に馴染まず、水の抜け道ができてしまうので、何回か水やりする。バケツに鉢ごと付け置きすると良い。
- 肥料は、1週間後ぐらいに新たに新葉が出だしたら、鉢の上になるべく有機肥料か有機配合肥料を軽く一握りずつ3か所に置き肥する。
- その後は毎月から20日毎ぐらいに置き肥し、1週間ごとに有機液体肥料か配合液体肥料、バラ専用液体肥料を活性剤等と一緒に希釈し与えるが、決して規定以上の倍率で使用しない。
- シーズン中のカリ分の過多は根を傷め、かえって悪影響を及ぼし、致命傷になることがあります。
- 9月いっぱいまで肥料をやり続け、新苗を早く大きく育てます。
- 秋の剪定後10月には初めて秋の花を見ることができます。
- 新苗は1年目に大きく育てないと、年を経過してからでは大きく育ちません。また、競技用のHTでは、1、2年までは強肥料で株を大きく育て3年目あたりから寡肥料で育てます。



図 8



図 9

参考資料：

○E B I系殺菌剤

これらは、薬剤名が違っていても同一系統で効果が同じなのでローテーションの中に入れるとき注意するのと年間使用回数の制限以内に収める。使いすぎは効かなくなるので注意。サプロール・サルバトーレEM・マネージ・ラリー・ルビゲン

○ネオニコチノイド系殺虫剤

優れた殺虫効果が期待できますが、欧米ではミツバチなどの減少の原因ではないかと疑義がもたれている薬剤です。日本で発売中の下記薬剤は厳重な検査を受けた登録農薬なので表示規約を守って使用する。アドマイヤー・アルバリン・ダントツ・ベストガード・モスピラン・バリアード

○バラには登録がないが効果の高い農薬

殺菌剤

アミスター10, 20(うどん粉病・黒星病・灰色かび病)

サンリット(うどん粉病・黒星病)

殺虫剤

フェニックス(ヨトウムシ・オオタバコガ) 特効薬

プレオ(ヨトウムシ・オオタバコガ・ハスモンヨトウ) 耐雨性、残効長い

スピノエース(ヨトウムシ・オオタバコガ・ミカンキイロアザミウマ) 効果が高く特効薬

カウンター(ヨトウムシ・オオタバコガ・ミカンキイロアザミウマ) 効果が高く特効薬

アーデント(アブラムシ・ミカンキイロアザミウマ・ハダニ) 浸透性はないが残効は長い

カネマイト(ハダニ類)

サンマイト(殺ダニ剤・アブラムシ・スリップス・うどん粉病)

マイトコーネ 殺ダニ剤 速効性も残効性もあり